2024年10月21日(月) 電波新聞

マス商事

横浜でプライベート展示会

「Change&Challenge」テーマに

ヤマハ発動機や県観光協会も後援

40社が最新製品を出展

左からイリソ電子工業の鈴木社長、神奈川県観光協会の望月会長、升社長、ヤマハ発動機の江頭執行役員、CKDの中谷部長

SMT技術専門商社のマス商事は17、18日、プライベート展示会「マストータルソリューションフェア2024」をパシフィコ横浜（横浜市西区）で開いた。テーマは「Change&Challenge」に設定した。同展示会は同社単独の主催。ヤマハ発動機や横浜市観光協会、神奈川県観光協会が後援した。

常に三社三得で

オープニングセレモニーでは、主催者を代表して同社の升杉夫社長が「ビジネスにおいて常に三者三得の考えを念頭に置いている。当社、ビジネスパートナーである取引先、お客さまの三者がお互いに成長し、利益を共有することが重要。この展示会を通して、その絆をさらに強固にしたい」と開会の言葉を述べた。

ヤマハ発動機は生産最適化エリアに出展

テープカットは升社長をはじめ、ヤマハ発動機の江頭綾子執行役員ロボティクス事業部長、神奈川県観光協会望月淳会長、イリソ電子工業の鈴木仁社長、CKDの中谷守執行役員自動機械事業本部営業統括部長が行い、展示会はスタートした。

会場は▽品質・信頼性▽省人化▽高効率生産▽生産最適化――など、テーマごとにエリアを設定した。

自動搬送車のデモ

出展社は約40社で製品やソリューションを紹介。生産効率化エリアに出展したヤマハ発動機はプレミアム印刷機や高速デイスペンサー、3D高速はんだ印刷検査装置などを紹介。イリソ電子工業はコネクター部品を展示した。CKDは品質・信頼性エリアでデュアルレーンはんだ印刷検査機、窒素生成ユニットデモ機などを展示した。

屋外では、自動運転車両の開発や販売などを手掛けるeveautonomy（イヴオートノミー）が自動搬送車のデモを実施した。

自動車産業の未来

基調講演は、ナカニシ自動車産業リサーチの中西孝樹代表アナリストが「BEV（電気自動車）／SDV（ソフトウエア定義車）シフトと国内自動車産業の未来」を演題に、製造業系ユーチューバーのものづくり太郎氏が「なぜSMTはヤマハ発動機が最適なのか？」を演題にそれぞれ行った。また、セミナーはFAシステム、搬送自動化とロボティクス、自動運転技術の自動化など多彩なテーマで開かれた。